

20年後のあなたへ —学びで拓く—

Learning opens up your bright 20-year futures

特集担当主査：澤田 茉伊

特集担当副査：大平 悠季

特集企画担当：石橋 奈都実、岩井 綾、大槻 順朗、海崎 真穂、瀬尾 弘美、村岡 泰輝、森山 仁志

変化する社会を学びで歩む

社会は目まぐるしく変化し、近年はその速度が増しているように感じる。気候変動、パンデミック、AIやDX、団塊世代の大量退職、働き方改革など、過去に経験したことのない出来事が次々と起こり、社会の価値観は大きく変化している。土木業界が社会の変化に柔軟に対応し、発展し続けるために、新しい視野を得るための「学び」は欠かすことはできない。すぐに効果があるとは言えないかもしれないが、一人一人の学びが未知の課題に取り組み力となり、新たな社会のニーズに応える力となっていくのではないだろうか。そして、世の中が変わるほど、そこには新しいチャンスが生まれ、ともすると硬直しているように見える土木業界にも若い世代が切り開くイノベーションが出てくるかもしれない。

本特集では、20年後の未来を見据えて、土木業界を支える人々の学びについて考える。

ABSTRACT

We are now facing unprecedented events, and society is changing faster than ever. Learning is a powerful and essential way for civil engineers to survive and continue prosperity although it takes time to exert significant effects. What kind of engineers do you want to be? How are you developing engineers? This special section reports 20 year-sighted learning activities in industry and educational institutions. The editors hope this special section will help our readers who are thinking about learning.

人と社会を豊かにする学び

土木工学は、学術と実践が密接につながった学問である。いま実践の場では、どのような人材が求められているのだろうか。インフラを通じていた安全・安心な社会を築くためには熱意のある人が求められることは昔から変わらない。しかし、技術の進歩に伴って、物事は一層速く効率的になり、グローバルになる中で、求められるスキルは変化している。このような実践の場の変化に呼応するよう、大学をはじめとする教育機関でも、時代に合わせたカリキュラムが導入されてきている。ただ、学び

は仕事に直結するスキルを得ることだけが目的ではない。学びの本質は、分からなかったことが分かるようになり、できなかったことができるようになることで、社会や日常をそれまでとは異なる視点から見られるようになることにある。人生のそれぞれの段階で自分なりの「学び」を見いだすことで、豊かな生き方を実践できるようになるだろう。

学び続ける環境を支える

継続は力なり。学び続けることが重要である。企業も競争力を維持するため、研修を通じて個々のスキルや知識のアップデートを促している。しかし、仕事と学びを両立するのは簡単ではない。それには、出産・育児などのライフイベントが障害となる個々の要因と、担い手不足や残業時間の制限で仕事として学びの時間を確保しにくい企業側の要因とがある。これらの課題に対し、学びの継続を支えキャリアプランを築く環境整備をどのように行っていけばよいただろうか。個人も企業も悩みながら活路を見いだそうと議論が重ねら

れている。

また、若年層の学びの継続にも注目したい。土木は私たちの生活を支える重要な役割を担っているが、仕事の内容を具体的にイメージしにくい側面もある。小・中・高から大学生までの各年代に、土木を学びたいと思うような魅力ある学びの機会をそれぞれ提供していかねなければならぬ。練られた工夫で土木の魅力を伝え続ける取り組みがなされている。

特集の構成

本特集では、I.「学びと実践」、II.「学びの継続と誘い」、の二つのテーマに分けて、20年後の土木業界を支えるための取り組みを紹介する。Iでは、企業の人事担当者や学生編集委員が、社会で求められる人材について率直にディスカッションした座談会を届ける。学力だけでなく総合力や適性に基づく就職のマッチングについて、特に若い読者にはきつと参考になるだろう。個別の記事では、教育機関がどのように将来（20年後）を見据えたカリキュラムを

提供しているかや、幅広い世代を対象にした学びの機会について、最新の取り組みを取り上げる。仕事をしながら学位を取得した方の体験談も紹介されている。これから学びをはじめようとする読者に勇気を与える内容である。IIでは、社会の変化に応じた人材育成について、企業の人事担当者が研修現場の現状を伝える座談会を企画した。個別の記事では、担い手不足を背景にした新しい研修スタイルや、

これまで議論される機会が少なかった女性土木技術者のキャリア構築のための学びの機会についても触れており、特にベテランの読者にとっては、組織運営のヒントになるかもしれない。土木業界の層を厚くするた

めの学協会によるアウトリーチ活動も紹介している。

土木を学んでいるみなさんが、20年後どのような技術者になっているか想像しながら、本特集が学びを考える一助になれば幸いである。



図1 Open AIが描いた学びで拓く土木工学のイメージ